

3. 鳥類調査

鳥類調査は、春季を平成19年5月18日、夏季を平成19年8月28日、秋季を平成19年9月11日、冬季を平成20年1月24日に実施した。

鳥類の確認種一覧を表2-3-1、各季の確認個体数や確認位置等詳細結果を資料4-1～5に示す。鳥類は、四季を通じて8目19科52種の鳥類が確認された。

表2-3-1 鳥類の確認種一覧表

No.	目名	科名	種名	渡り区分	平成19年				平成20年	貴重種選定基準		
					春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	環境省RL	三重県RDB		
1	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	○	○	○	○				
2	コウノトリ	サギ	ササゴイ	夏鳥	○	○				●		
3			ダイサギ	留鳥	○	○	○					
4			コサギ	留鳥	○	○	○	○				
5			アオサギ	留鳥	○		○					
6	カモ	カモ	マガモ	冬鳥				○				
7			カルガモ	留鳥	○			○				
8			コガモ	冬鳥				○				
9			ヒドリガモ	冬鳥				○				
10			オナガガモ	冬鳥				○				
11			ハシビロガモ	冬鳥				○				
12			ホシハジロ	冬鳥				○				
13			キンクロハジロ	冬鳥				○				
14			スズガモ	冬鳥				○				
15			ウミアイサ	冬鳥				○				
16			タカ	タカ	ミサゴ	留鳥				○	●	●
17					トビ	留鳥				○		
18			チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○					●
19					シロチドリ	留鳥	○			○		
20	シギ	キョウジョシギ		旅鳥	○							
21		トウネン		旅鳥		○	○					
22		ハマシギ		冬鳥	○			○				
23		キアシシギ		旅鳥	○	○	○					
24		イソシギ		留鳥	○	○	○	○				
25		ソリハシシギ		旅鳥		○	○					
26		オオソリハシシギ		旅鳥	○	○						
27		チュウシャクシギ		旅鳥	○	○						
28		カモメ		ユリカモメ	冬鳥	○		○	○			
29				セグロカモメ	冬鳥				○			
30	オオセグロカモメ			冬鳥			○	○				
31	カモメ			冬鳥				○				
32	ウミネコ			留鳥	○	○	○	○				
33	ズグロカモメ			迷鳥				○	●			
34	コアジサシ		夏鳥	○					●	●		
35	ハト		ハト	キジバト	留鳥	○	○	○	○			
36		アオバト		留鳥		○						
37	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥			○					
38	スズメ	ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○	○					
39			セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○	○	○			
40		セグロセキレイ	留鳥		○	○	○					
41		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥				○				
42			モズ	留鳥				○				
43		ヒタキ	イソヒヨドリ	留鳥				○				
44			ツグミ	冬鳥				○				
45			セッカ	留鳥			○	○				
46			ホオジロ	留鳥				○				
47		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○							
48			ハタオリドリ	スズメ	留鳥	○	○	○	○			
49		カラス	ムクドリ	留鳥	○	○	○	○				
50			ハシボソガラス	留鳥	○	○	○	○				
51			ハシブトガラス	留鳥		○	○					
52	(ハト)	(ハト)	ドバト	留鳥	○							
合計 8目19科52種					25	22	24	32	3	5		

注1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録-脊椎動物編-」(1993年、環境庁)に準拠した。

注2) 渡り区分は、一般生態の他、現地調査時の状況により区分した。

注3) 「環境省RL」及び「三重県RDB」は、「環境省レッドリスト 鳥類」(環境省、2006年)<<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>>及び「三重県レッドデータブック 2005 動物」(三重県、2006年)を示す。

3-1 出現状況

目別の種数及び個体数の集計結果を表 2-3-2、季節変化を図 2-3-1 に示す。

季別の種数及び個体数は、春季が 25 種 268 個体、夏季 22 種 2,527 個体、秋季 24 種 462 個体及び冬季 32 種 1,480 個体が確認され、種数は冬季に、個体数は夏季にそれぞれ最多となった。

目に着目すると、種数については、各季節ともスズメ目が 6~10 種と多い傾向にあり、季節別に見ると春季にチドリ目(11 種)、冬季にカモ目(10 種)が特徴的に多くなっていた。個体数では、春季にチドリ目、夏季から秋季にかけてチドリ目カモメ科、冬季にはカモ目がそれぞれ最多となっていた。

なお、種数の多いスズメ目は、セキレイ類やイソヒヨドリを除き、多くの種が調査範囲の一部に存在する草地や樹林地のみで確認された。

表 2-3-2 鳥類の目別種数及び個体数

目名等	春季 (平成19年5月)		夏季 (平成19年8月)		秋季 (平成19年9月)		冬季 (平成20年1月)		合計	
	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数
カイツブリ目									0	0
ペリカン目	1	10	1	43	1	50	1	3	1	106
コウノトリ目	4	7	3	70	3	47	1	2	4	126
カモ目	1	4					10	764	10	768
タカ目					1	1	1	1	2	2
チドリ目チドリ科	2	28					1	61	2	89
チドリ目シギ科	6	45	6	56	4	44	2	12	8	157
チドリ目カモメ科	3	91	2	2,302	3	242	6	558	7	3,193
ハト目	2	6	2	2	1	1	1	3	2	12
ブッポウソウ目					1	1			1	1
スズメ目	6	77	8	54	10	76	9	76	15	283
合計	25	268	22	2,527	24	462	32	1,480	52	4,737

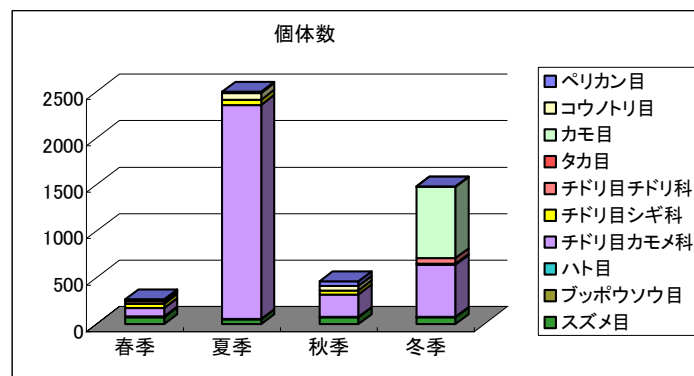
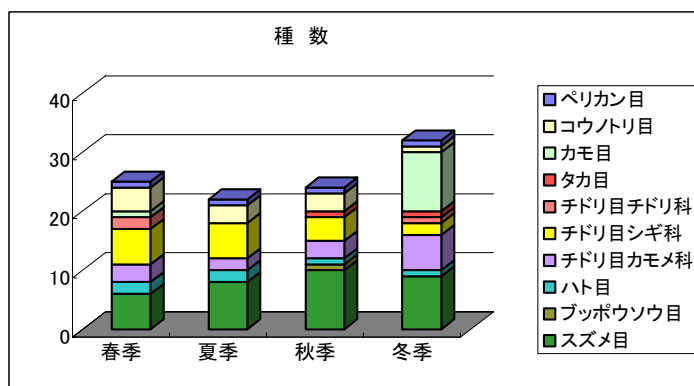


図 2-3-1 鳥類の目別種数及び個体数の季節変化

3-2 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカイツブリ目、ペリカン目、カモ目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性のミサゴ(タカ目タカ科)及びカワセミ(ブッポウソウ目カワセミ科)が確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、食性に着目したグループングを行った結果、表 2-3-3 に示す 7 つのグループに区分された。

各グループの出現状況を次頁以降に整理した。

表 2-3-3 干潟を利用する鳥類のグループ区分

グループNo.	構成種等	主な食性	現地確認種
1	カワウ、ミサゴ、トビ、アジサシ類、カワセミ	海上及び河川で魚を食べる	・カワウ ・ミサゴ ・トビ ・コアジサシ ・カワセミ
2	サギ類	浅瀬で主に魚を食べる。昆虫、エビ、カニ等広範。	・ササゴイ ・ダイサギ ・コサギ ・アオサギ
3	陸ガモ類	主に水草や藻、草の実や葉等。その他に水生昆虫、貝やエビ等。	・マガモ ・カルガモ ・コガモ ・ヒドリガモ ・オナガガモ ・ハシビロガモ
4	海ガモ類	潜水して貝類やカニ、水生昆虫、小魚、水草や藻など	・ホシハジロ ・キンクロハジロ ・スズガモ ・ウミアイサ
5	シギ・チドリ類	ゴカイ、貝、カニ、水生昆虫等干潟の小動物を食べる	・コチドリ ・シロチドリ ・キョウジョシギ ・トウネン ・ハマシギ ・キアシシギ ・イソシギ ・ソリハシシギ ・オオソリハシシギ ・チュウシャクシギ
6	カモメ類	魚類、カニ、エビ、貝、ゴカイ、草の実や海藻、死体等さまざまなものを食べる	・ユリカモメ ・セグロカモメ ・オオセグロカモメ ・カモメ ・ウミネコ ・ズグロカモメ
7	セキレイ類	カゲロウ、ハエ、ガ等の昆虫類やクモ、イトミミズ等	・ハクセキレイ ・セグロセキレイ

(1) カワウ、ミサゴ、トビ、アジサシ類及びカワセミ

カワウが四季を通じて確認され、特に夏季と秋季に多数が確認された。また、コアジサシは春季のみ多数が確認された。

カワウとミサゴは、朝明川河口周辺に出現する浅瀬の中でも、沖側のやや水深のある場所を中心として、潜水や空中からのダイビングによる採餌が確認された。また、カワウの一部やコアジサシは、河口部の浅いプール状の水域やその周辺の干潟で休息が確認された。

表 2-3-4 カワウ、カイツブリ類等の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成19年			平成20年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
カワウ	留鳥	10	43	50	3	106
ミサゴ	留鳥			1		1
トビ	留鳥				1	1
コアジサシ	夏鳥	71				71
カワセミ	留鳥			1		1
合計		81	43	52	4	180



図 2-3-2 カワウ、ミサゴ、トビ、カワセミ類及びアジサシ類の干潟利用状況

(2) サギ類

コサギが四季を通じて確認され、夏季に比較的多数が確認された。

サギ類は、河口部に出現する浅瀬全域で採餌及び休息が確認されたほか、西側水路や火力発電所の護岸等で休息する様子も確認された。

表 2-3-5 サギ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成19年			平成20年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ササゴイ	夏鳥	1	1			2
ダイサギ	留鳥	2	17	18		37
コサギ	留鳥	3	52	27	2	84
アオサギ	留鳥	1		2		3
合計		7	70	47	2	126



図 2-3-3 サギ類の干潟利用状況

(3) 陸ガモ類

陸ガモ類は、冬季に多数が確認された。

これらの種は、朝明川河口周辺の広い範囲で採餌する群れが確認された。特に河口部の沖側のやや水深のある場所でまとまった群れの採餌が確認された。

表 2-3-6 陸ガモ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成19年			平成20年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
マガモ	冬鳥				29	29
カルガモ	留鳥	4			24	28
コガモ	冬鳥				47	47
ヒドリガモ	冬鳥				107	107
オナガガモ	冬鳥				256	256
ハシビロガモ	冬鳥				11	11

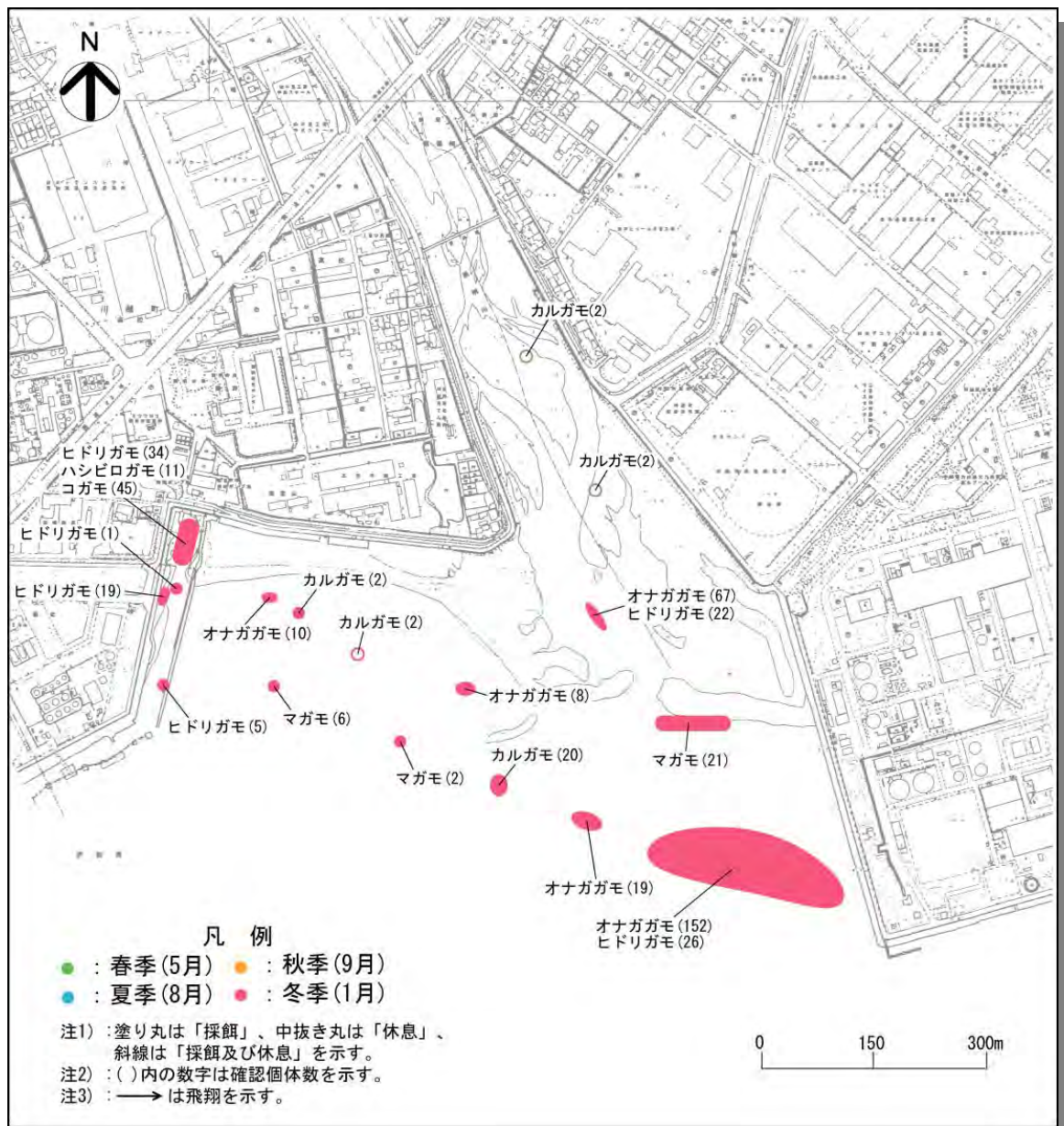


図 2-3-4 陸ガモ類の干潟利用状況

(4)海ガモ類

海ガモ類は、冬季のみ多数確認され、特にスズガモとホシハジロが多数確認された。

これらの種は、朝明川河口周辺に出現する浅瀬のうち、沖側のやや水深のある場所や西側水路部の水面上を中心に、採餌または休息する様子が確認された。

表 2-3-7 海ガモ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成19年			平成20年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ホシハジロ	冬鳥				81	81
キンクロハジロ	冬鳥				10	10
スズガモ	冬鳥				197	197
ウミアイサ	冬鳥				2	2
合計		0	0	0	290	288

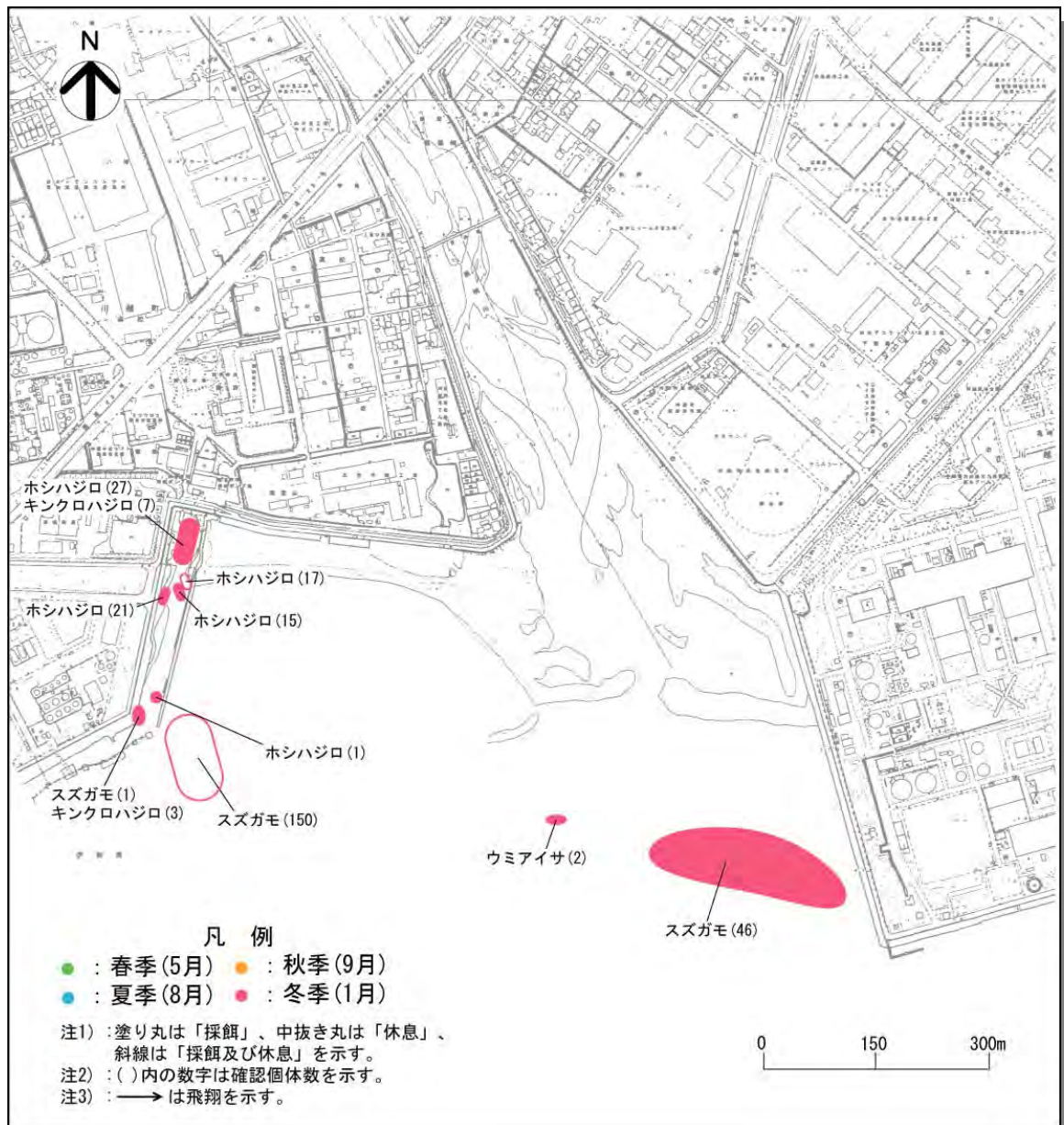


図 2-3-5 海ガモ類の干潟利用状況

(5) シギ・チドリ類

留鳥では、四季を通じてイソシギが確認され、春季及び冬季にシロチドリが比較的多数が確認された。また、旅鳥であるキアシシギが春季から秋季に、トウネン及びソリハシギが夏季から秋季に確認された。

本グループの種は、朝明川河口周辺に出現する干潟全域において、移動しながら採餌する様子が確認された。中でも、西側水路部で採餌する個体が比較的多数確認され、この付近を重要な餌場としている様子がうかがえた。

表 2-3-8 シギ・チドリ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成19年			平成20年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
コチドリ	夏鳥	1				1
シロチドリ	留鳥	27			61	88
キョウジョシギ	旅鳥	9				9
トウネン			20	8		28
ハマシギ	冬鳥	3			9	12
キアシシギ	旅鳥	19	9	4		32
イソシギ	留鳥	6	14	10	3	33
ソリハシギ	旅鳥		10	22		32
オオソリハシギ	旅鳥	1	2			3
チュウシャクシギ	旅鳥	7	1			8

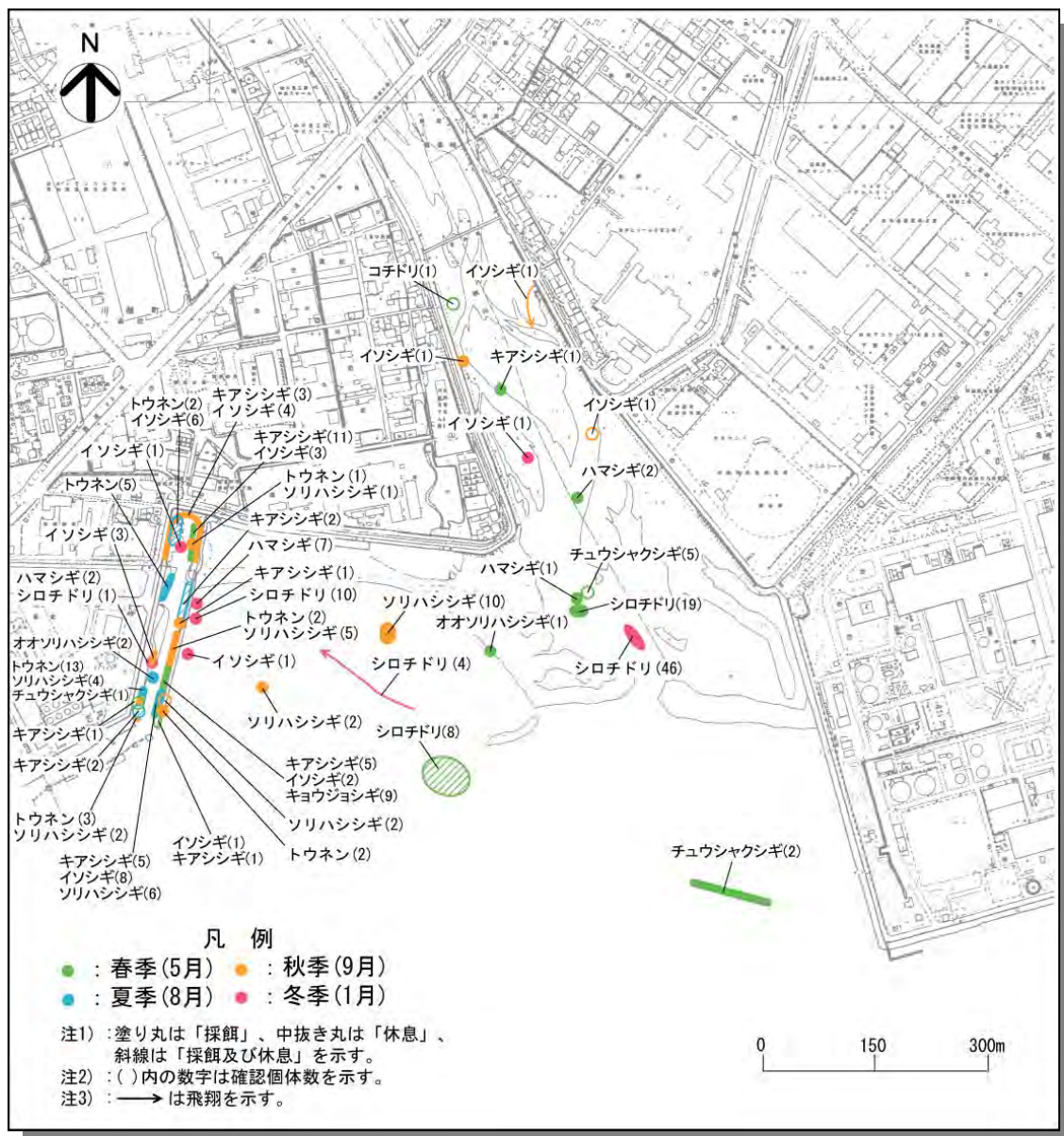


図 2-3-6 シギ・チドリ類の干潟利用状況

(6) カモメ類

留鳥であるウミネコが四季を通じて確認され、特に夏季と秋季に多数が確認された。ウミネコ以外では冬季にユリカモメ等の冬鳥が4種と迷鳥のズグロカモメが確認され、ユリカモメの個体数が多かった。

これらの種は、沖に面した干潟部や河口部の浅いプール状水域等で採餌・休息する様子が確認された。

表 2-3-9 カモメ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成19年			平成20年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ユリカモメ	冬鳥	4		2	471	477
セグロカモメ	冬鳥				25	25
オオセグロカモメ	冬鳥		2	1	2	5
カモメ	冬鳥				55	55
ウミネコ	留鳥	16	2300	239	2	2557
ズグロカモメ	迷鳥				3	3

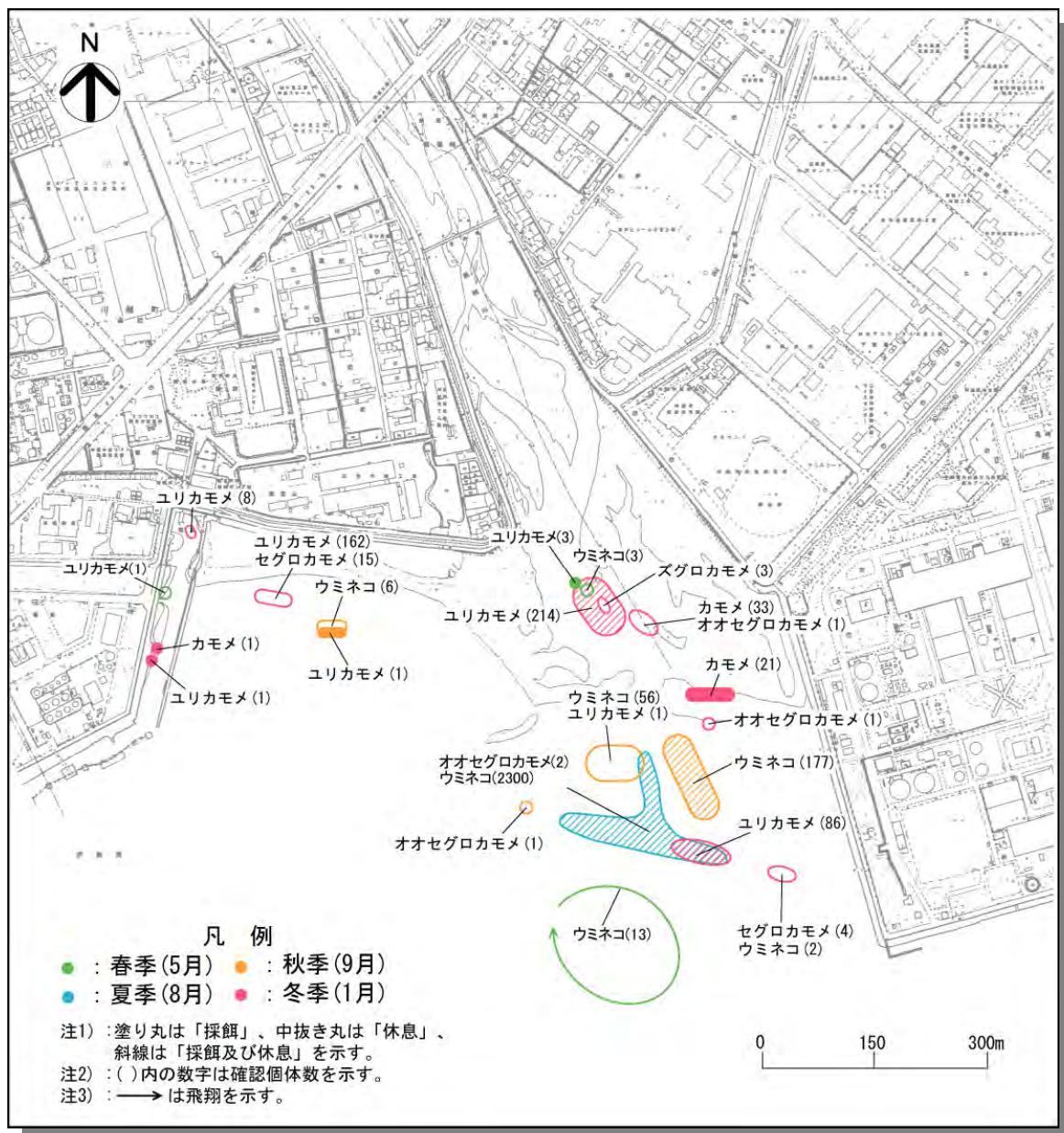


図 2-3-7 カモメ類の干潟利用状況

(7)セキレイ類

セキレイ類は、ハクセキレイが四季を通じて確認され、セグロセキレイが春季、秋季及び冬季に少数確認された。

両種とも、河口部の砂浜や砂礫地、西側水路部において、水際を移動しつつ採餌する様子が確認された。

表 2-3-10 セキレイ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ハクセキレイ	留鳥	2	5	4	7	18
セグロセキレイ	留鳥	2		3	2	7
合計		4	5	7	9	25



図 2-3-8 セキレイ類の干潟利用状況

3-3 繁殖状況

調査範囲において繁殖に係る行動は、特に確認されなかった。

3-4 貴重種生息状況

貴重種として、ササゴイ、ミサゴ、コチドリ、シロチドリ、ズグロカモメ及びコアジサシの6種が確認された。

貴重種の確認状況及び選定基準等を表 2-3-11、干潟利用状況を図 2-3-9、貴重種の生態等を資料 4-3 に示す。

<干出した干潟部>

広い範囲で、春季にコアジサシとシロチドリの採餌・休息が確認され、シロチドリは冬季にも46個体と多数が朝明川の干潟部で確認された。また、秋季には、その上空を広域的に採餌飛翔するミサゴが確認された。

<西側の水路付近>

水際において、春季と夏季にササゴイ、冬季にシロチドリが各1個体確認された。

表 2-3-11 鳥類の貴重種確認状況

No.	種名	貴重種選定基準		渡り区分	平成19年				確認状況
		環境省RL	三重県RDB		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	平成20年 冬季(1月)	
1	ササゴイ (サギ科)		絶滅危惧II類(VU) [繁殖]	夏鳥	●	●			西側水路の護岸水際において、春季に休息中の1個体、夏季に採餌及び休息中の1個体が確認された。
2	ミサゴ (タカ科)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧IB類(EN) [繁殖] 絶滅危惧II類(VU) [越冬]	留鳥			●		秋季に干潟西部の上空において、採餌飛翔する1個体が確認された。飛翔途中で、採餌のためのダイビングが1回確認された。
3	コチドリ (チドリ科)		絶滅危惧IB類(EN) [繁殖]	夏鳥	●				春季に朝明川河川域の干潟部において、休息中の1個体が確認された。
4	シロチドリ (チドリ科)		絶滅危惧IB類(EN) [繁殖] 準絶滅危惧(NT) [越冬]	留鳥	●				春季には、干出した干潟で採餌及び休息中の8個体のほか、朝明川河川域で採餌中の19個体が確認された。また、秋季には、干潟上、朝明川河口域の干潟、西側水路において、順に10個体、46個体、1個体が確認されたほか、干潟上を飛翔し休息する4個体が確認された。
5	ズグロカモメ (カモメ科)	絶滅危惧II類 (VU)		迷鳥				●	冬季に、朝明川河口域の浅瀬において、休息中の3個体が確認された。
6	コアジサシ (カモメ科)	絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧IB類(EN) [繁殖]	夏鳥	●				春季に、採餌及び休息中の個体を、干潟西部で55個体、朝明川河口域の浅瀬等で16個体が確認された。

注1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録－脊椎動物編－」(1993年、環境庁)に準拠した。

注2) 渡り区分は、一般生態の他、現地調査時の状況により区分した。

注3) 「環境省RL」及び「三重県RDB」は、「環境省レッドリスト 鳥類」(環境省、2006年)<<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>>及び「三重県レッドデータブック 2005 動物」(三重県、2006年)を示す。

絶滅 : 我が国(三重県)ではすでに絶滅したと考えられる種。

野生絶滅 : 飼育・栽培下でのみ存続している種。

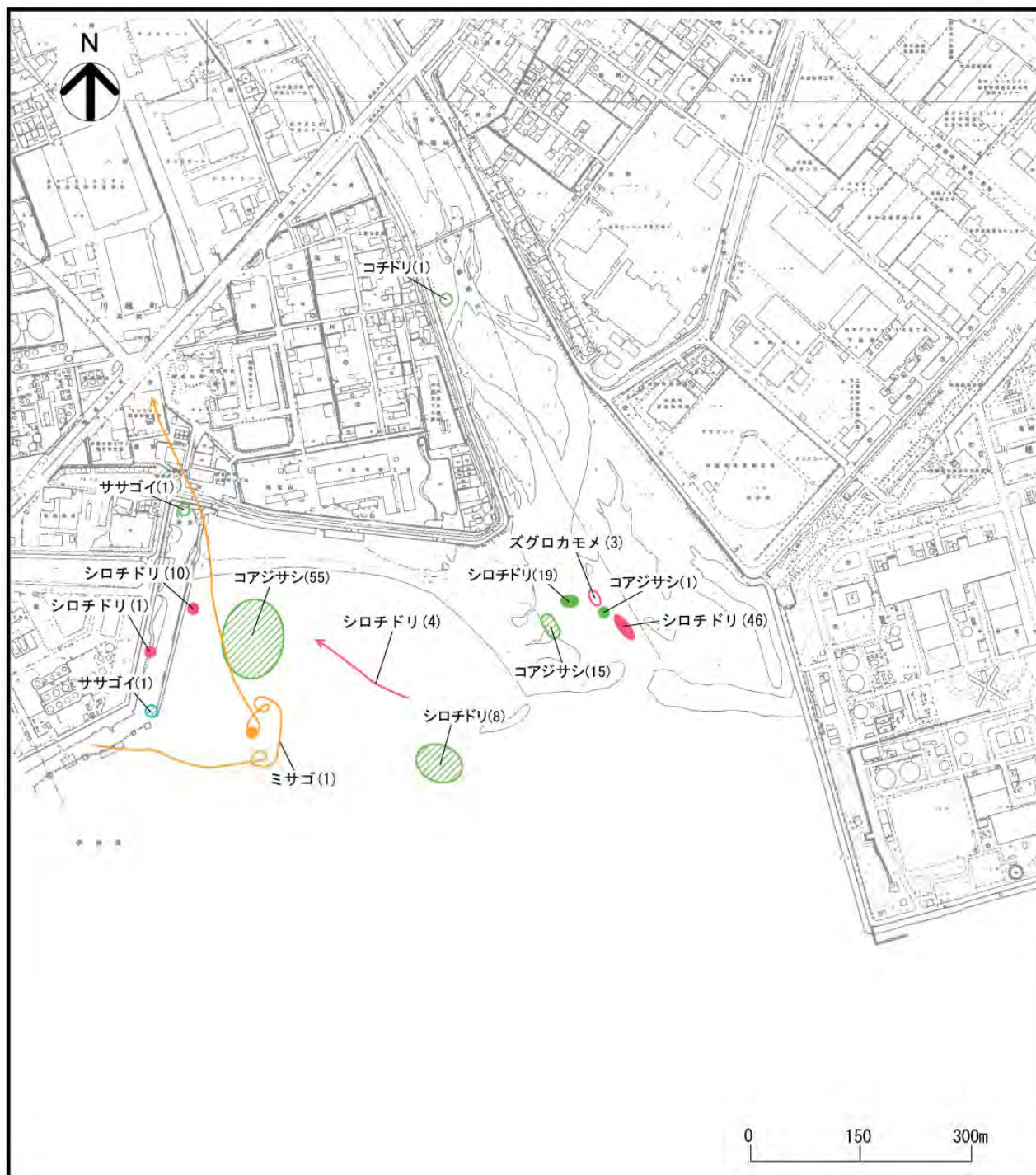
絶滅危惧IA類 : 絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

絶滅危惧IB類 : 絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

絶滅危惧II類 : 絶滅の危険が増大している種。

準絶滅危惧 : 存続基盤が脆弱な種。

情報不足 : 評価するだけの情報が不足している種。



● : 春季(5月) ● : 秋季(9月)
 ● : 夏季(8月) ● : 冬季(1月)

注1) : 塗り丸は「採餌」、中抜き丸は「休息」、
 斜線は「採餌及び休息」を示す。

注2) : ()内の数字は確認個体数を示す。

注3) : → は飛翔を示す。

図 2-3-9 鳥類貴重種の確認位置図